

良心の碑

いしづみ



行ってきました 山中湖 新島先生の足跡を訪ねる旅

7月5日(水)6日(木)、晴天に恵まれ、山中湖に行ってきました。旅行幹事：上中、支倉、木原 参加者18名

車中は大賑わい

東京鍛冶橋駐車場で14人、藤沢市辻堂で4人が乗り込み勢揃い。早速、飲料水や菓子袋、饅頭、飴など差し入れの品々が次から次に廻ってきました。久しぶりのバス旅行は、遠足のような賑わいでした。



双宜荘

蘇峰は1945年8月15日の敗戦を山中湖の双宜荘で迎えました。

その書齋が、山中湖村立徳富蘇峰館に復元されています。蘇峰が土地と建物を同志社に、机・書籍・原稿・掛け軸などを山中湖村に寄贈したからです。ここで蘇峰は歴史的名著『頑蘇夢物語』を口述しました。

語り明かそう

夕食の後、ホテルロビーで冷酒をチビリチビリやりながらおしゃべりをしました。風に吹かれながら外で美味しくうたにタバコを吸うふたりもいました。このまま朝まで語り明かしたい気分でした。飲食禁止のロビーを使わせてくださったホテルの経営者(上中さんの友人)に感謝です。

同志社大学施設課の配慮

晩晴草堂は静岡県熱海市にありましたが、蘇峰の死後、双宜荘敷地内に移築されました。

大学施設課は当初、工事中であることから内部の見学許可を渋っていましたが、見学当日は朝から管理者を待機させて出迎えてくれました。



歴史的建物

晩晴草堂は昭和初期の平屋建て木造建築です。A級戦犯容疑者に指名された蘇峰が逮捕を免れて蟄居した家であり、『近世日本国民史』100巻を完成した家でもあります。和風建築としての価値もさることながら、「蘇峰の終焉の家」としての歴史的価値を評価して同志社大学は建築当時の姿で保存活用しています。



鯉の餌やり

山中湖の棧橋に鯉が集まってきました。1袋100円の餌2袋

みんなで鯉にやりました。「これが一番楽しかったわ」という声があがりました。

新島先生の足跡？

山中湖村に新島先生は足を踏み入れていません。山中湖村の別荘地は昭和に初めに開発されたのですから。

今年の「足跡を訪ねる旅」は新島先生の「足跡」のない場所を訪れたのです。蘇峰イコール新島という考えからでしょうか、新島研究の対象が広がったからでしょうか、目的地について誰からも異論が出ませんでした。

今度はどこなの？

帰りの車中で「今度は函館に行きたいわね」「熊本がいいな」「行くのなら岡山でしょう」と旅行の希望続出。

幹事一同、そのような声を聞いて、今年思い切って「新島先生の足跡を訪ねる旅」を実施してよかったな、と感じました。ところで来年の幹事はだ〜れ？

(旅行後記) 昨年、上中さんから「ぼくが案内するから山中湖に行きましょう」という提案があり、それに乗ることにしました。参加者募集チラシは木原さんが作成しました。4月、幹事三人で下見をし、バスを借り上げないことには旅行が成立しないという結論になりましたが、マイクロバスにするか中型バスにするかさんざん迷いました。

旅行に際しては車中での飲料水、御菓子、饅頭、飴などを、またホテル二次会での冷酒、おつまみなどを差し入れていただきました。人数確認、誘導、写真撮影なども快く引き受けていただきました。感謝申し上げます(幹事一同三拜)。

(文責:支倉清 写真:江澤香・木原康博)

9月の予定

日時 9月21日(木)午後2時から
会場 同志社大学東京オフィス
内容 研究発表

津田道夫「小崎家アルバム」

司会 江澤香 聖書朗読 坂本恵子
祈禱 小崎敬子
受付 佐々木博子 河合式子
写真 徳弘篤介 村木文明